

八月、国と県は新市長が誕生した沖縄市の方針も見極めず泡瀬干潟の埋め立て再開を発表しました。県は私たちが県庁ロビーでの写真展を環境保全課を通じ申請したら文書で断つてきました。「県の埋め立て方針に反するから駄目だ」が理由です。

今時、この非民主的で閉鎖的な姿勢は問題です。沖縄市では何回も行ってきているのに……

そのような中、三大全国紙の読売新聞がこのほど三度目の泡瀬干潟特集を組み報道しました。一方、地元

てによって地域おこしをやりたいという主張もあります。その気持ちも沖縄本島がほとんど埋め立てられてきた経過からすれば「どうして泡瀬だけ埋め立てがで

あるとしても」ということで分らないわけではなく、その保障はみんな考えてえなくてはならないでしょう。

私の地元泊、前島も終戦直後、米軍によって基地建設のため埋め立てられました。泡瀬干潟にはラムサール

す。今は波の上人工ビーチで、約四十年前、私は父と一緒にメリケン袋にいつばいガサミを捕った思い出があります。昔はどこにも泡瀬のような自然があったのです。

縄市の目指すチャンプルー文化の自然環境生物版を泡瀬干潟が体現しています。食物連鎖の頂点の人と生物が共生し、絶妙なバランスが保たれています。

泡瀬干潟は赤土汚染もなく海藻やサンゴが元気で、神秘的な浅場のウミエラも生息し、オニヒトデもないというユニークな海です。研究や教育の場として、新たな観光資源としても有望です。

泡瀬干潟は足元の宝物

通信基地跡地を自然公園に



屋良 朝敏

た。埋め立てを推進している国（沖縄総合事務局）はかつての前島塩田潟原の上に立っています。きっとそこにはミニミニメツキガニもいたはずだ。

戦前、那覇の若狭の海にもクビレミドリが生息していたというのもうなすけま

た。埋め立てを推進している国（沖縄総合事務局）はかつての前島塩田潟原の上に立っています。きっとそこにはミニミニメツキガニもいたはずだ。

戦前、那覇の若狭の海にもクビレミドリが生息していたというのもうなすけま

た。埋め立てを推進している国（沖縄総合事務局）はかつての前島塩田潟原の上に立っています。きっとそこにはミニミニメツキガニもいたはずだ。

論

壇



た。埋め立てを推進している国（沖縄総合事務局）はかつての前島塩田潟原の上に立っています。きっとそこにはミニミニメツキガニもいたはずだ。

戦前、那覇の若狭の海にもクビレミドリが生息していたというのもうなすけま

た。埋め立てを推進している国（沖縄総合事務局）はかつての前島塩田潟原の上に立っています。きっとそこにはミニミニメツキガニもいたはずだ。

戦前、那覇の若狭の海にもクビレミドリが生息していたというのもうなすけま

た。埋め立てを推進している国（沖縄総合事務局）はかつての前島塩田潟原の上に立っています。きっとそこにはミニミニメツキガニもいたはずだ。